

令和3年生駒市教育委員会第2回定例会会議録

1 日 時 令和3年2月22日(月) 午前9時30分～午前11時35分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

3 審査事項

- (1) 報告第1号 臨時代理につき承認を求めることについて(生駒市立学校・園における新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの改定について)
- (2) 議案第5号 令和3年度予算編成について
- (3) 議案第6号 令和3年生駒市議会第1回(3月)定例会提出議案の意見について
- (4) 議案第7号 令和3年度生駒市社会教育基本方針及び重点目標について
- (5) 議案第2号 令和3年度生駒市学校教育の目標について

4 教育委員会出席者

教育長	中 田 好 昭		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委員	神 澤 創
委員	坪 井 美 佐	委員	レイノルズあい
委員	西 井 久 之	委員	伊 藤 智 子
委員	古 島 尚 弥		

5 教育委員会欠席者

委員	寺 田 詩 子
----	---------

6 事務局職員出席者

教育こども部長	奥 田 吉 伸	生涯学習部長	八 重 史 子
教育こども部次長	坂 谷 操	教育総務課長	山 本 英 樹
教育指導課長	前 田 伸 行	学校給食センター所長	財 満 直 也
こども課長	松 田 悟	こども課指導主事	川 田 奈 津 子
こども課指導主事	松 本 裕 美	子育て支援総合センター所長	角 井 智 穂
生涯学習課長	清 水 紀 子	図書館長	西 野 貴 子
スポーツ振興課長	西 政 仁	教育総務課課長補佐	小 北 敦 志
教育指導課課長補佐	八 代 大 輔	教育指導課課長補佐	日 高 興 人
こども課課長補佐	大 窪 奈 都 子	生涯学習課長補佐	井 川 啓 一 郎
教育総務課(書記)	牧 井 望	教育総務課(書記)	鬼 頭 永 実

7 傍聴者 5名

午前9時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 第1回定例会、第1回臨時会及び第2回臨時会会議録の承認

○日程第2 教育長報告

- ・生駒市立幼稚園及び小・中学校のあり方に関する基本的な考え方に係る地域協議会の経過及び今後の予定について、奥田教育こども部長から説明

<参照：資料1>

(質疑)

イノダ 委員：私も該当地区に住んでおり、先日回覧板で意見の書き込み用紙が回ってきて、住民の意見聴取、集約のため、自治会が動いてくださっていると実感した。今後も、地域協議会の動きを注視していきたい。そのために、幼稚園分の会議録はホームページで閲覧しているが、小学校分は現段階では掲載されていなかったと思う。とても丁寧に協議されていることは分かるが、タイムリーに協議内容が把握できると、教育委員会において質疑もできるので、事務局も多忙とは思いますが、調製次第、公開をお願いしたい。

- ・教育委員会関連の新型コロナウイルス感染症感染に伴う対応等について、奥田教育こども部長から説明

<参照：資料2>

(質疑) なし

- ・市長専決処分の報告について、山本教育総務課長から説明

<参照：資料3>

(質疑) なし

- ・小学校第6学年学習到達度調査の結果概要について、前田教育指導課長から説明

<参照：資料4>

(質疑)

伊藤 委員：生駒市の子どもたちの学力が非常に高いことが分かった。資料4の2ページの到達率の表について、「読むこと」が奈良県も生駒市も低めの数値が出ているが、今年度だけが感染症対策のための臨時休校等の影響で下がってしまっているのか、それとも例年低いのか。例年や前年の結果との比較を伺いたい。

前田 課長：今回の到達度調査は奈良県が今年度独自で行ったものであり、例年との比較ができない。

レイノルズ委員：本調査は、回答に G Suite for Education を使っている。タブレット端末を活用することで、アンケートも答えやすく、かつ集計もしやすくなったと思う。また、今年度は、同じ児童に対して、夏と冬の2回アンケートできたことにより、変化が分かりやすくなった。例年の学力学習状況調査は、年1度だったので、個別に追うことはできず、大まかな把握にとどまっていたかと思う。同学年の前半・後半で2回のアンケートを実施することで、個を把握できるようになったと思う。また、ICTを活用した集計により、学校、学年、クラスごとの結果も参照しやすく、ひいては学級担任の評価につながる部分もあると思う。奈良県が本調査を実施するのは今年のみかもしれないが、生駒市独自でも、継続的に実施できれば、児童の習熟度の把握、先生方の指導の改善につなげられると思うので、検討をお願いしたい。

飯島委員：教科の到達度については、県と比較し、良い成績だったと報告があった。しかし、今年度は感染症によって学習にマイナスな影響が大きかったと思う。奈良県のポイントも生駒市のポイントも、平時と比べて良かったか悪かったか、見極めることが非常に困難である。マイナスな影響が多かったことを踏まえ、来年度からの中学校の指導についても、引き続き配慮していただきたい。また、今回対象外であった小学1～5年生に対しても、引き続き、学習の遅れが生じていないか、先生方にはご留意いただきたい。また、レイノルズ委員からもあったように、前半と後半が比較でき、また数値が上がっていることも確認できた。このことは、指導にとって有益だと思う。先生は、学校ごと、学級ごとにも結果が見られるはずである。学級によって、先生が積極的に働きかけていたのに、あまり変化がなかった学級もあれば、逆に先生が比較的放任していても、子どもたちが自発的に取組を変えた学級もあると思う。どのような指導が子どもたちに影響するか、先生方でしか把握できないことかと思うので、今年度のマイナスを補うべく、引き続き観察を続けていただきたい。

- ・一人一台タブレット端末とオンライン環境を活用した今後の取組について、前田教育指導課長から説明。

<参照：資料5>

(質疑)

坪井委員：事例集は非常によくできているので、各校の先生方に行き届けば、今後さらに現場でのICT活用の取組が進むと感じている。また、保護者の立場から、端末の配布については、大きな困難もなく、無事配布され、安心した。端末用ケースについて、当初の学校からの連絡では、市で用意する予定と聞いていたが、業者との調整の結果、一括調達が難しくな

ったと、学校から素早く報告があったので、各家庭において、冬休み中に調達できた。今後も緊急での対応が続くので、家庭の協力を要請することもあると思う。対応が困難な家庭もあるので、密な連絡が必要になると思うが、今後も学校が抱え込みすぎず、家庭と歩調を合わせて進めていただきたい。また、タブレット端末を使用した学習について、子どもからは非常に面白いと聞いており、保護者としても今後の取り組みに期待したいと思う。ただ、学校ごと、クラスごとで、タブレットの活用にムラが出てしまうのは非常にもったいないと感じる。事例集の共有を通じて、先生の実力の均一化が図られればと思う。最後に、子どもたちがタブレットを持ち運ぶことが多いと伺っている。持ち運びが多くなると破損の危険性も上がる。そして荷物が予想以上に重くなっており、特に月曜日はかなり重い荷物を運んでいると聞いている。しかも、持ち帰っての学習のためではなく、充電のための持ち帰りということだが、今後、各教室への充電保管庫の納品予定はないのか。

前田 課長：クロームブックの持ち帰りについて、今後、新しい文房具として使用するため、持ち帰らせるよう、事務局から各校にお願いしている。また、今後、感染拡大状況によって、再度休校となった場合、家に充電アダプタがないと、使用できなくなるため、現段階では充電アダプタを家庭に置き、持ち帰って充電する形をとっている。持ち帰り等の取扱いについては、学校で使用する頻度、家庭で使用する頻度を見極め、今後各校において判断される。現段階でも、学校に置かせている学校もあり、今後使用していく上で、情報収集を行いながら、検討したい。

古島 委員：あすか野小学校のオンライン修学旅行を視察したが、非常に良い取組だと思った。また、保護者として参観も行ったが、授業の中でロイロノートを使っているのを見て、改めて、少しずつではあるが、活用が進んでいると実感した。活用を進めるにあたって、オンライン修学旅行の際にもあったが、ネットワークへの接続が途絶えてしまうなど、オンライン特有のトラブルが生じることがある。私も、教員として、オンラインを活用して、他府県の学校との交流や海外への講義をする機会がある。そのようなトラブルによって、オンラインに消極的になる方もいるが、それ以上にオンラインだからこそできることもある。トラブルにばかり注目するのではなく、むしろ子どもにもトラブルがあることを知ってもらいながら、一緒にICTを活用した学びを進めていけるようになりたい。先生方が、ミスしてはいけないと考えないように、チャレンジしやすい環境づくりが非常に重要だと思う。

伊藤 委員：事例集を見れば、何ができるようになったかが分かりやすく、先生方にとっても技術的指導がしやすくなると感じている。私も、オンライン修学旅行を視察し、また保護者として鹿ノ台小学校の参観に行った。内容

は、どちらも平和学習だったので、この場で感想を共有したい。あすか野小学校は、様々な技術を盛り込んで、先生のスキルアップにもつながる、大変すばらしい取組であったと思う。鹿ノ台小学校も、一人一台ずつ端末を持っていることによって、学びが深まり、関心が広がっていると実感した。鹿ノ台小学校では、一人一分ずつ、それぞれの切り口で発表を行っていた。例えば、第二次世界大戦中の兵隊の食事の日米比較、当時の学校生活の様子などそれぞれが調べてきた内容を発表していた。発表はそれまではなかったような深さで、子どもたちの関心が一気に広がったと感じられた。比較するようなものではないが、あすか野小学校は技術的な面はとても良かったが、子どもたちの中にはやや受け身になっていた面があったと思う。実行委員の子は鉄道会社とウェブ会議をしたり、報道発表に出たり、非常に積極的に関わっていたが、それ以外の子どもたちの中には、当日の様子を見ている限りだと、テレビを見ているような様子の子もいたように思えた。形式が異なるので何とも言いえないが、鹿ノ台小学校は、全員による手作りの発表会という感じがして良かった。今後は、オンラインを活用して、いかに主体的で深い交流を引き出していくかが課題であり、検討していかなくてはならないと感じた。タブレット端末は対話性を深めるツールだと思うので、先生がやりすぎずに、ある程度子どもに活動をゆだねる必要がある。今後、子どもたちは更にICT活用に強くなっていくので、課題設定から、子どもたち個人あるいはグループにゆだねて学びを進められればと思う。

飯島委員：ICT機器の活用について、大学1回生に対して、小中学校でどのような活用をしたかを聞いてみると、ほとんどの学生は学校にパソコン教室があり、週1回程度で使ったという。今の大学1回生もデジタルネイティブと言える世代だが、小中高の12年間を通じて、ICT機器を用いた授業を体験する機会はほとんどなかった。どうすれば子どもがICT機器を使ってより分かりやすく、楽しく理解できるのか、先生方がいかに工夫するべきかという点については、新任の先生方も学ぶべき部分かと思う。教員向けのICT研修やICT活用リーダー研修などを行い、授業の中で日常的に使用できるように、学んでいただきたい。このことは先生方に若干の負担をお願いすることだと思うが、今は使うのが大変であっても、使いこなせるようになると、今より楽になる部分もあると思う。子どもたちにとって、兄姉の代にはなかったものが今は使えて、自分専用の機械があることが楽しいと感じられるように、働きかけていただければと思う。その方法は先生方にゆだねるしかないが、引き続きお願いしたい。

○日程第3 報告第1号 臨時代理につき承認を求めることについて（生駒市立学校・園における新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの改定について）

- ・生駒市立学校・園における新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの改定について、前田教育指導課長から説明
＜参照：議案書p1、別冊1、資料6～7＞
（質疑） なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第4 議案第5号 令和3年度予算編成について

- ・令和3年度予算編成について、奥田教育こども部長、八重生涯学習部長から説明
＜参照：議案書p2、別冊2、資料8～9＞
（質疑）

飯島委員：生駒市史の編さんについて、前回の市史編さんから30年が経過し、市制50周年を機に再編さんすることのだが、前回以降だけでなく、前回以降の研究の成果を踏まえて、前回編さんした部分についても、再編さんするという理解で良いか。

八重部長：そのとおりである。

飯島委員：歴史研究において、都道府県史、市町村史でしか分からないことが多い。しかし都道府県史、市町村史は当該の自治体に行かなくては、閲覧できないことが多い。遠方の自治体のものも行かなくても閲覧できるようになると、歴史研究が非常にスムーズになる。また、ある地域の歴史において空白となっている部分が、隣接する地域のものに載っていることもあるし、また、別々の事象ととらえていたもののなかに相関関係が見いだせる場合もある。このような場合に、デジタルアーカイブがあれば、研究が進む側面があるので、当市でも今後検討いただきたい。

坪井委員：感染症の影響で、今年度できなかったことも多かったのも、来年度はなるべく多くの取組が実施されることを期待している。今年度中止・縮小となった事業について、当初の見込みより支出額が減少したものが多かったと思うが、これらは執行残となってしまうのか、また、事業ができなかったことにより、マイナスとなったものもあるのか。

八重部長：今年度予算については、減額補正をするため、予算残にはならない。ある事業で減額した分は、異なる事業で増額補正として充当されている。

奥田部長：今年度予算のうち、実行できなかった事業の予算は、減額補正をして、異なる財源に充てられる。予算編成は単年度ごとになるので、本予算案においては、今年使わなかったからと言って来年に繰り越すものを含めず、令和3年度単独の予算を作成したものである。

西井委員：本予算案は、財政的に厳しい中、作成されたものかと思う。ただ、小中学校の施設整備が俵口小学校の屋上防水工事だけとなっている。屋上防水工事は、すでに雨漏りしている場合にするものなので、最低限のものしか予算が通っていないと考えられる。以前からお願いしているが、生駒市内の校舎は、児童生徒数の急増期に作った経緯があり、鹿ノ台小学校の改修工事ができないまま、それ以降に建った学校も改修工事ができていない。生駒南小学校に視察に行った際、コンクリートにヒビが入っている箇所も見受けられた。抜本的に校舎を見直して、大規模改修工事が進むよう、再度お願いしたい。

イルズ委員：関連して、施設整備費について、中学校は0である。中学校の工事は令和4年度以降となるのか。

奥田部長：令和3年度予算編成にあたって、投資的経費については、財政難のため、ほとんど予算措置できなかった。改修工事は前年度に設計し、発注の際、補助金を受ける。令和3年度は、設計の予算も通っていない。今回最低限必要な改修工事として、小学校費では屋上防水工事を計上できたが、中学校については、令和4年度以降となる。

イルズ委員：トイレ改修が残っている学校もあるように思う。

奥田部長：生駒南中学校以外は全て令和2年度予算で終了である。

山本課長：補足であるが、トイレ改修工事については、令和2年度予算を繰り越して、令和3年度に施工予定である。

イルズ委員：幼稚園の施設整備費について、資料8の2ページ「南こども園手洗い場屋根設置工事」とあるが、今年度とほぼ同額が計上されている。こちらは、今年度できなかったものを来年度実施するということか。

松田課長：今年度分と異なる箇所である。来年度は、3歳未満児用手洗い場の屋根設置を予定している。

イルズ委員：生涯学習部について、今年度までは「託児事業こあら」が載っていて、来年度以降も継続されるかと思っていたが、載っていない。来年度以降実施されないのか。

西野館長：継続して実施していく予定だが、本事業は託児を受け入れ、ボランティアの方が子どものお世話をするものであり、今年度はコロナ禍のため、ボランティアの方々を養成していたものの、実施には至らなかった。来年度以降についても、不安定な状況が続くなか、実施できるか不明であるため、あえて資料には記載しなかった。ただ、今後も取組は進めていく予定である。

イルズ委員：学校給食センターは令和5年度までの債務負担行為を組んでおり、かなり大規模な改修工事の予定かと思う。工事中の給食実施体制など、どのような予定か伺いたい。

財満所長：改修の対象は中学校センターであり、給食の提供を止めることはできないので、主に学校の夏期休業期間に改修工事を実施する。学期中の平日は、外回り工事など、給食に直接関係のない箇所の工事を実施する予定である。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第5 議案第6号 令和3年生駒市議会第1回（3月）定例会提出議案の意見について

・令和3年生駒市議会第1回（3月）定例会提出議案の意見について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p3、資料10>

（質疑） なし

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第6 議案第7号 令和3年度生駒市社会教育基本方針及び重点目標について

・令和3年度生駒市社会教育基本方針及び重点目標について、清水生涯学習課長から説明

<参照：議案書p8>

（質疑）

伊藤委員：移動図書館、「100の複合型コミュニティ」との連携による「まちかど図書室事業」の概要について説明を受けたい。

西野館長：いずれも、平成28年に「図書館とまちづくりワークショップ」を開催した際に、市民から提案された事業である。現在も、本のある地域の居場所を目指して、自治会集会所などに本を置く活動をしている。今後も広く展開していきたい事業ではあるが、本の貸し借りの管理など、自治会側の負担が大きいなどの課題もあり、なかなか進まない側面があった。本市では現在、100の複合型コミュニティという形で、市内にさまざまな主体が集まって地域を盛り上げていく、居場所づくりをしていく取組が進められている。その中には、本も一つの要素として考えている方もおられるので、図書館も協力し、市内のあらゆる場所で、本の貸出や、お話会が開催されることを期待している。また、移動図書館については、他の自治体ではブックモバイルに本を詰めて、巡回しながら貸出を行っており、ブックモバイル自体が町のアイコンとなっている自治体もある。本市でも、移動図書館を通じて、皆さんの本のある生活に供したいと考えている。

伊藤委員：ブックモバイルは新たに購入するのか。

西野館長：1台購入予定である。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第7 議案第2号 令和3年度生駒市学校教育の目標について

・令和3年度生駒市学校教育の目標について、前田教育指導課長から説明

<参照：議案書p12、別冊3、資料11>

(質疑)

いづみ委員：提案した意見をかなり反映していただいた。前回案よりバランスよく整理されたと思う。こちらの目標を、学校現場での様々な活動につながる運用ができればと思う。

坪井委員：今年度は、コロナ禍で保護者が学校へ行く機会がほとんどなく、不安、不信感の募る状況が少なからずあったと思う。2月に初めて参観ができ、保護者はクラスの様子や担任の先生の顔も、初めて見る事ができた。保護者から聞いている意見や、先日のあすか野小学校での視察を踏まえ、保護者にとって学校の状況が見えない不安は大きく、学校からの積極的な情報公開が必要になると感じた。オンライン参観や運動会の練習の様子の配信などが明記されると、保護者にも安心感があると思う。小中学校の具体的な取組に共通している②に、「学校・家庭・地域が一体となり、児童の学びを支える。」で一度切り、「ICTを活用したオンライン参観の実施等、家庭や地域に積極的な情報公開に努め」を追加するような文言修正が可能か。

前田課長：3ページの「信頼される園・学校づくりの重点課題」において、情報公開の充実を記載している。オンライン参観等は検討しているところであり、パスワードの管理等の課題もあるので、現行の「情報保護者発信の充実」という表現に留めたい。

西井委員：子どもたちが一人一台タブレット端末を持つと、情報発信できるようになる。今回、意見を踏まえて、重点目標として情報モラルが整理されたが、一方で「人権尊重」という言葉が重点目標から消えた。具体的な取組には、記載されているものの、個人的には、この言葉を外していいのか不安に思う。人権尊重は、国民的な課題であって、当市でも人権尊重の取組をきちんと対策しなくてはならない事案も発生している中である。他の変更については、特別活動も重点課題から消えているものの、こちらは具体的な取組に入っていれば問題ないと思う。感染症対策のため、部活動も十分にできない部分があると思うが、部活を楽しみに学校に来ている子、部活によって、自己有用感を得ている子もいるので留意していただきたい。

伊藤委員：坪井委員の意見について、確かに今までは情報発信として、学級通信や学校通信をもらっているものの、信頼関係の構築に十分とは言えないと思う。また、学校に対して不安に感じていることが言えない保護者も多い。保護者が心を開いて対話できるような関係が理想だと思うので、信頼関係の構築の項目にも、対話的などの双方向的な表現があると良いと思う。今、保護者にとって切実な部分だと思う。

飯島委員：前回具体的な意見が多かったが、調製され、まとまった。西井委員から、重点課題から人権が消えたという意見があった。人権尊重とは、日本の教育にとって非常に重要である認識は間違っていない。しかし、書きぶりについては、様々な考え方があるのではないかと。重点課題に書く以外にも、今回のように具体的な取組において、「人権尊重の精神を重視した」と書くのも一つの手段だと思う。人権尊重は、規範意識、自尊感情、情報モラル、心の居場所すべての局面に関わってくる。重点課題に書かれなくても、人権尊重の精神が学校教育の目標の中に根付いていると感じとれるので、この記述でも人権教育について、後退したとは思わない。また、詳細な内容について、具体的な記述が欲しい部分もあると思うが、本件は市全体の学校教育の目標である。学校や地域によって、さまざまな条件があるなかで、個々の学校や学級でこの学校教育の目標に即した目標を掲げ、市全体の目標として掲げられる内容が実現されるよう、取り組まれると思う。具体的な記述については、足りていないのではなく、各校で検討されるべきことかと思う。すべての学校や地域を同じように扱って、すべて達成させることはできない。それぞれの学校・学級で長短を考慮したうえで、取り組むべき課題を捉えて、目標を定めていただきたい。このような説明を配布する際に付け加えることによって、市全体の学校教育の目標には、詳細な記載をしなくても、対応可能だと思う。

中田教育長：人権尊重の精神については、生駒市自治基本条例に記載があり、これは、市の条例・規則等の基礎となるものであり、教育委員会の定める目標などもすべてそれに基づくものである。また、1ページにも「人権尊重の精神を基盤とした」という文言があるので、重点目標としては、あえて書かなくてもいいと思う。また、具体的な取組についても、これはメインではなく、念押しで書いているというものであり、重点目標に入れるまでもなく、人権尊重の精神の重要性は理解できると思う。また、ICTを活用した情報共有については、コロナ禍の中で、コミュニケーションが減っていくなかで不安があるのは理解できる。しかし、ICT活用を進めていくことも記載されているので、オンライン参観などの具体的な文言までは、記載せず、各校の判断で取り組んでいくべきかと思う。各校の校長が経営方針を持っており、それに則ってICT活用、保護者との関係構築も含め、運営していくと考えているので、活用方法は学校

にゆだねたい。具体的な内容については、アクションプランや予算案の中で見える化していくので、学校教育の目標としては、この形でお願いしたい。

伊藤委員：3ページ「安心して信頼される園・学校づくりの重点課題」の保護者との信頼関係の項目に、「コミュニケーション重視による」と追記することはできないか。

中田教育長：前回の継続審議の際に、文言も含めての提案を依頼していたので、これから変更させようとする、全体のバランスを再度見る必要もあり、更に継続審議となる。学校への報告期限はいつか。

前田課長：事務局としては、3月1日の校長会で報告したいと考えている。

中田教育長：そうであれば、調製のいとまがないので、解釈の幅のある状態でとどめたい。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第8 その他

・令和3年2月行事予定について、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明（質疑）

レックス委員：3月も興味深いものが多いが、13日の「君は茶柱 projectPR イベント」は図書館のイベントかと思うが、タイトルが面白く、見るだけで引かれるのが良いと思う。どのような内容か伺いたい。

西野館長：平成29年度から、茶釜をテーマに子どもたちのアクティブラーニングを目的とした事業を、毎年実施しており、実際にお点前をしたり、お茶会をしたりしてきた。今年度は内容をパワーアップしていきたいと思っていたが、今年度はコロナ過のため実施できておらず、最後に大きなイベントを開催するものである。里山写真家の今森光彦氏に講演をしていただく予定である。今森氏は昆虫写真家としても世界的に有名な方で、茶釜との関連で、人々が里山と共生しなくては、良い竹がとれないということ、子どもたちに勉強してもらいたいと考えている。この講演のほか、茶釜師をお呼びし、作業の様子を見せていただく。このイベントで関心を持たれた方に、来年度実際に茶柱 project に参加していただき、生駒市の茶釜文化を盛り上げていくことを目的としている。

レックス委員：来年度以降の茶柱 project の計画もあれば、伺いたい。

西野館長：来年度は実際に里山を見ていただき、里山をどう守るか考える。また、実際に茶釜を作る体験もしてもらう予定である。最後に、参加した子どもたちでドリンクのレシピなどを考えて、市民の方を招いてお茶会をしたいと考えている。また、本事業は単発で終わらず、更に次年度以降にもつながるように、続けていきたいと考えている。図書館の資料も用い

て、地場産業や経済についても学び、考えるアクティブラーニングの場になるよう、計画していきたいと考えている。

○閉会宣告

午前 11 時 35 分 閉会